

西之島の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

6 月 11 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

活動概況

< 8 月 26 日の状況（図 3～5） >

26 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、北側火口（図 3）の東側に白色の噴煙を連続的に噴出する新たな火口（東側火口）が確認されました（図 3）。北側火口内の溶岩の湧き出し（溶岩マウンド¹⁾）からは、短い間隔で溶岩片を噴出する噴火を繰り返していました。溶岩マウンドはほぼ楕円形で、大きさは長径約 90m、短径約 60m でした（図 4）。北側火口と南側火口の間では青白色の噴煙を噴出していました（図 4）。溶岩流は東側へ流下し、海面に接した場所では白煙を上げていました。

新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,550m、南北方向に約 1,250m、面積は約 1.21 km²（前回 7 月 23 日：1.08 km²）でした（図 5）。

変色水域は、西之島の北東側と南西側の 2ヶ所に分布していました。北東側の変色水域は、北東岸から南東に向け、帯状で幅約 700m、長さ約 2,000m 以上で茶褐色から黄緑色に変化しながら分布していました（図 3 の）。また、南西側の変色水域は、南西岸から南岸に沿って、幅約 100～200m で褐色から黄緑色の変色水域が分布し、南側海岸線中間付近の沖合に南西方向に伸びる帯状で長さ約 700～800m、幅約 100～200m の薄い黄緑色の変色水域が分布していました（図 3 の）。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

1) 火口内に湧き出した溶岩が丘状に高まりを作ったもの。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 9 月分）は平成 26 年 10 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

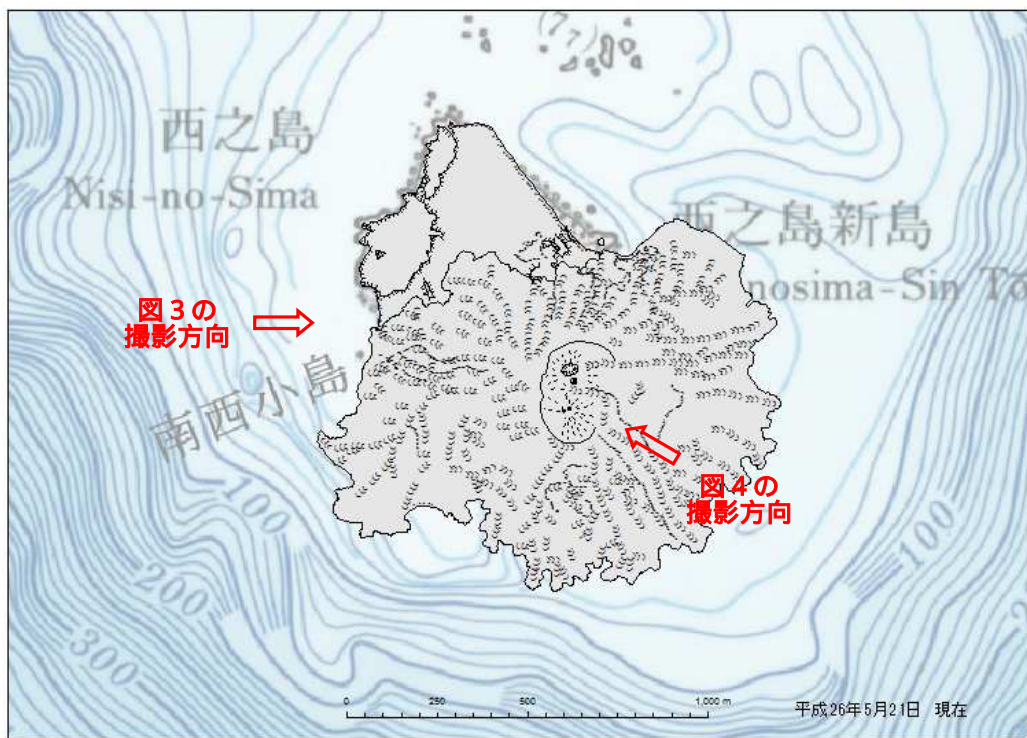


図2 西之島 主な撮影方向
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 噴火及び変色水域の状況

(8月26日10時35分 西方向から撮影・海上保安庁提供)

- ・北側火口()の東側に新たに東側火口()が認められました。
- ・変色水域が北東岸から南東に向けて()と南西側から南岸に沿って流れ、その後、南側海岸線の南東方向の沖合()に分布していました。



図4 西之島 北側火口周辺の状況

(8月26日11時40分 南東方向から撮影・海上保安庁提供)

- ・北側火口内に溶岩マウンドの形成()と、北側火口と南側火口間の火口から青白噴煙を噴出()しているのを確認しました。

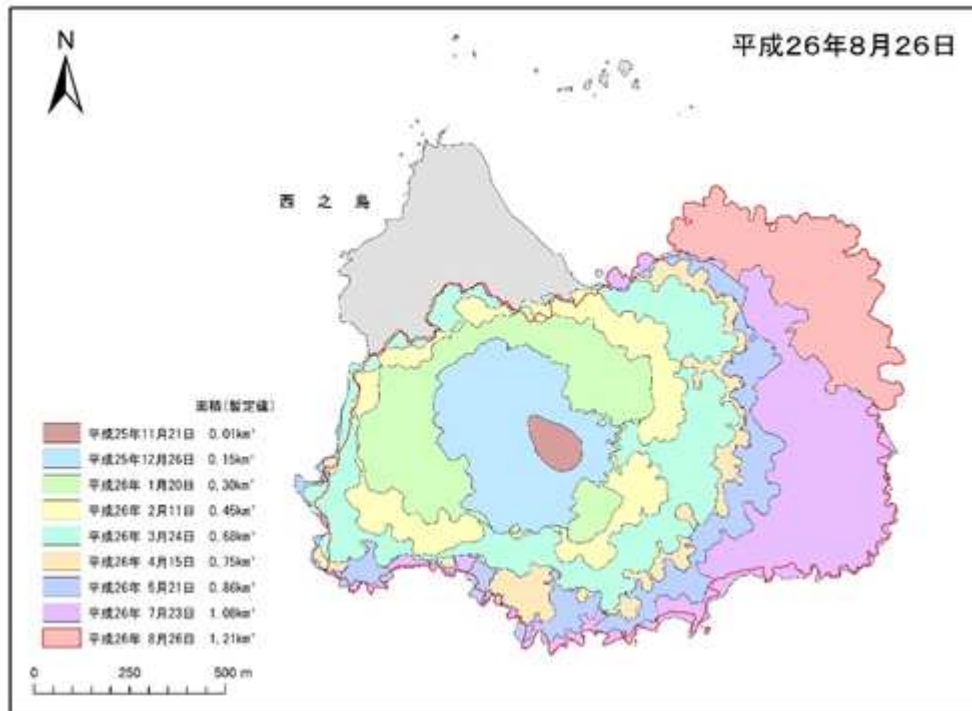


図5 西之島 面積変化図(海上保安庁作成)